

① 市の景観行政のこれまでの取り組みについて

●改めて見てみよう、平塚の景観

□ 市街地の発展

江戸時代には「中原御殿」ができ、東海道に平塚宿が置かれました。明治時代には東海道本線の開業により、町の中心は停車場のある平塚新宿へと移転し、まちの発展が始まりました。その後、日本火薬製造会社（のちの海軍火薬廠）をはじめとする工場立地が始まり、人口増加をもたらしました。

太平洋戦争中の空襲で、軍需工場を含む中心部314haが焦土となりましたが、戦後の復興土地区画整理事業により、現在の都市基盤が形成されました。

現在の市街地は、JR東海道本線平塚駅を中心に商業・業務機能が集中し、これを囲むように住宅地が広がり、相模川沿いの市街地には工業団地が広がっています。近年は、金目川西側の市街地外縁部などに住宅地の広がりが見られます。

□ 地形の構造

平塚市は相模湾に面し、海岸線から西北に広がる末広型で、市域は相模低地、湘南砂丘地および大磯丘陵地等にわかれています。背後には丹沢山麓を控え、西に富士箱根連山を遠望でき、四季を通して温暖な気候に恵まれています。

一級河川の相模川を東側に、金目川、渋田川、鈴川などの金目川水系の河川が市内中央部を流れています。

海岸線は、およそ4.8kmの幅で相模湾に面しています。

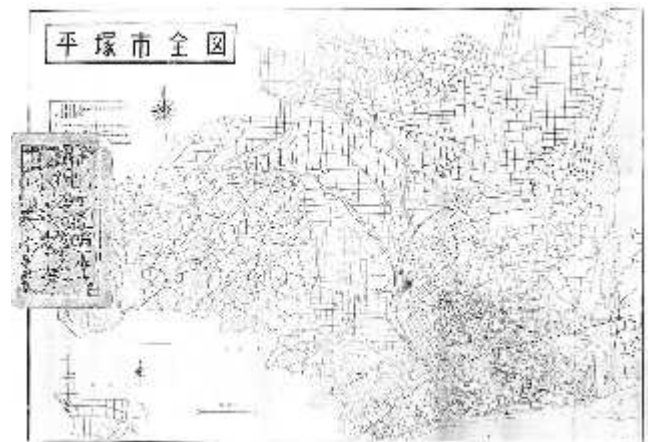
□ 土地利用の状況

土地利用の特徴として、住宅や商・工業地などの都市的土地利用と、農地などの自然的土地利用がほぼ均衡する状況にあります。

景観的なまとまりとしては、西部から北部の丘陵地域、北部の田園地域、南部の市街地地域に区分できます。



昭和7年の状況



昭和32年の状況

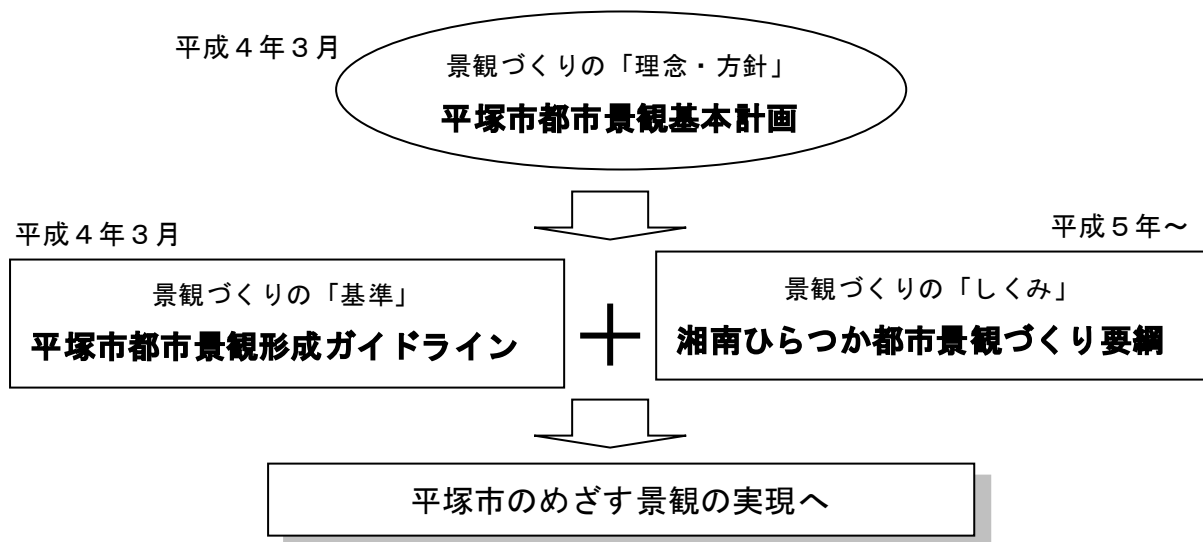


平塚市の水系



●平塚・都市景観の取組み～展開

平塚市では、景観の形成を図る指針として、平成3年度に「平塚市都市景観基本計画」を策定し、平成5年度には「湘南ひらつか都市景観づくり要綱」（平塚らしい個性的で印象深い湘南の都市づくりを図り、もって豊かな人間性と地域文化の育成に寄与することを目的に制定）を策定しました。現在、建築物や工作物などの建設を行なう場合に、あらかじめ協議・届出を行なう仕組みを整えています。



また、モデルとなる地区をめざし、優れた景観形成を図るべき地区として、「海へのシンボル軸」、「都市のシンボル軸」、「歴史軸」の3つの地区指定を行なっています。現在この歴史軸については「歴史軸（旧東海道）景観整備基本計画」を策定し、住民主体の「平塚宿まちなみ景観協議会」が景観からのまちづくり活動を行なっています。



「海へのシンボル軸」



「都市のシンボル軸」



「歴史軸」

このほか、道路景観の創出（工場の沿道緑化）、公共施設都市景観形成・整備指針（学校の沿道緑化）、景観アドバイザー制度（色彩アドバイザー、学校色彩計画）、公共サイン基本計画（駅周辺サイン整備）、壁画イベント（須賀港防潮堤、日比野克彦展）、まちかどスケッチ展、景観シンポジウム等、様々な取



須賀港壁画



なぎさプロムナード



真土小学校



工場のみちすじ緑化



谷川堀



平塚の塚緑地



江戸方見附



駅前公共サイン

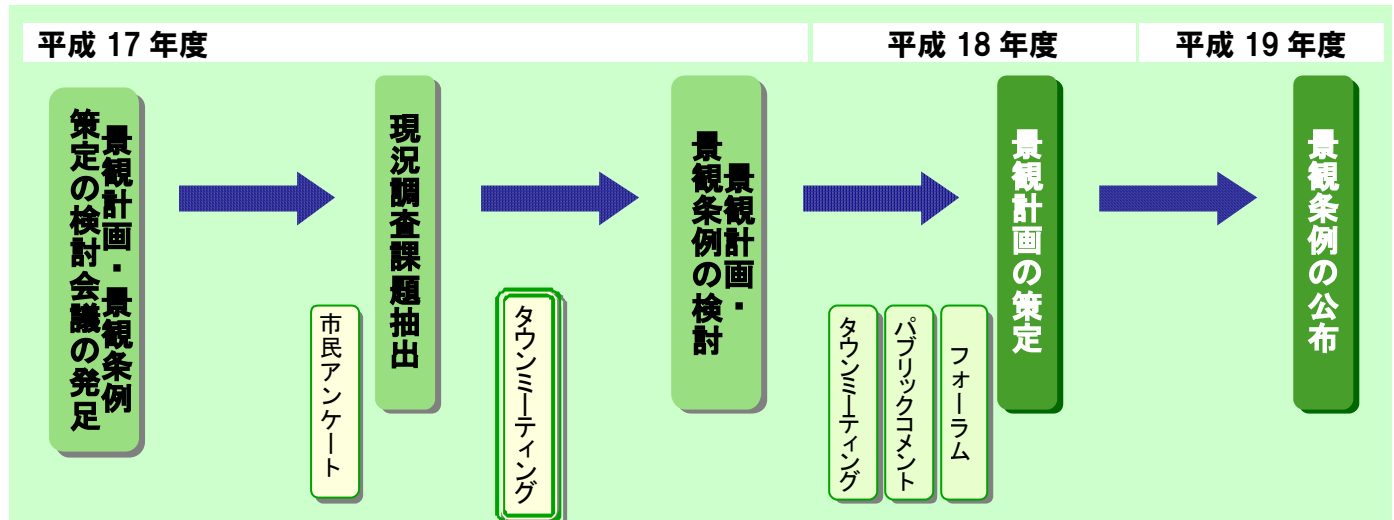


まちかど広場

② 「景観計画」策定の検討経過の報告

□ 計画・条例づくりの流れ

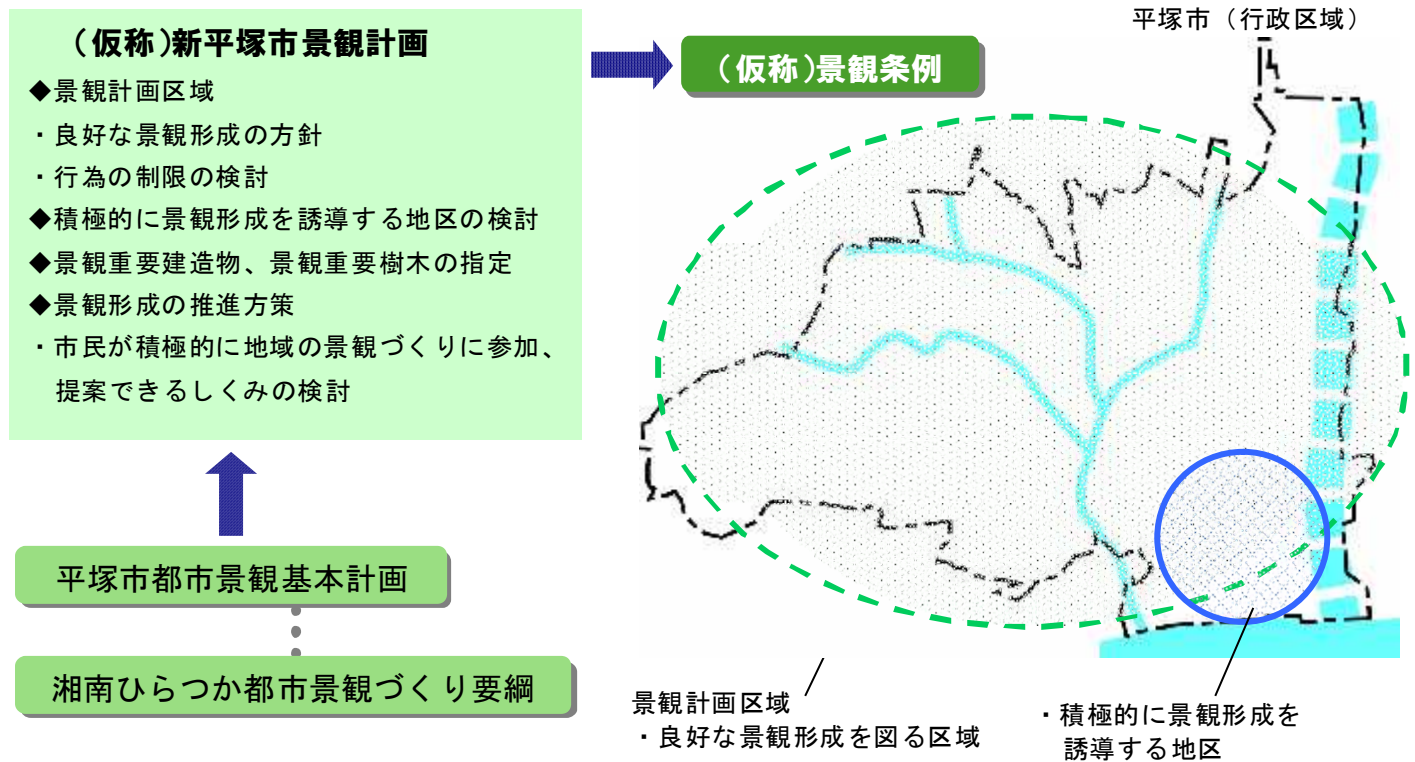
平塚市では、平成 17 年度から平成 18 年度にかけて、具体的に「景観計画」や「景観条例」についての検討及び策定を進め、平成 19 年度の「景観条例」の公布・施行を目指しています。



□ 景観計画のイメージ

平塚市は、平成 17 年 1 月 24 日に景観法に基づく「景観行政団体」となりました。

「平塚市都市景観基本計画」及び「湘南ひらつか都市景観づくり要綱」を発展させ、新たな「景観計画」及び「景観条例」の策定を進めていきます。



お問い合わせ

平塚市 都市政策部 都市政策課 都市景観推進担当
TEL: 0463-21-8781 (都市政策課直通) FAX: 0463-23-9467
URL: <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/toshi-s>
E-mail: toshi-s@city.hiratsuka.kanagawa.jp